



# 田中彫刻記

でんちゅうちようこくき

第十二話 ～塑像の研究・後編～

Takashi  
作 ©いとうたかし



はい、でもこの暮らには  
花が咲くのでしょうか



苦労かけてすまない…



たつた郎達の暮らしは、  
苦しくなる一方でした。

けんきゅうつくさくひん  
研究で作る作品は、売るための  
ものではないため、収入はありません。



いつか咲かせてみせる

納得がいくまで  
やりきりたいんだ…



俣太郎は、心に決めたことをやり通しました。この生き方を支えたのは、かつての恩師、禅僧の西山禾山と岡倉天心の言葉でした。



芸術の表現は理想にある

夢中になって仕事をしなさい

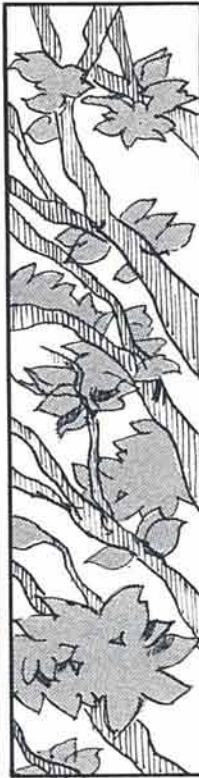
無心無我となつて本を読んでいる...それが仏の姿だよ



平櫛俣太郎は彫刻家としての名前を、美家の姓の田中を用いて平櫛田中としました。



そこの頃から



塑像の研究は、3年間続きました。